

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ルアナ大開		
○保護者評価実施期間	R6年11月18日		～ R6年12月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	R6年12月1日		～ R6年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年1月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	新築で療育事業所であることを設定された作りであるため、構造化や環境設定しやすい点では、スペースの確保や設備等がよい評価であった。	構造化された環境であるため、活動によって使用する部屋などが視覚的に理解しやすいよう工夫ができています。	毎年利用する子ども達も入れ替わるので、それぞれの特性に合わせた環境設定ができるよう職員で工夫していきたい。
2	職員間でのコミュニケーションがしっかり図れており、研修の機会も多く、健康的かつ資質の向上が図れる職場づくりが出来ている。	朝のミーティング以外でも、時間を見つけてとにかく情報共有をしている。 活動プログラムについてもみんなで話し合いながら画一的にならないよう工夫して組み立てることを意識している。	引き続き積極的に研修に参加しより良い療育の提供ができるよう質の向上に努めるとともに、職員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーションにもさらに力を入れていきたい。
3	ICTを活用して、活動の様子が写真と記録などを通してわかりやすく保護者に伝えることが出来ている。 24時間いつでも保護者が施設に連絡をとれる機能も活用し、気になることなどがあれば気軽に連絡がとれる体制が整っている。	日々の活動については毎日、5領域に分け、何を目的に、どのような手段で行っているかをわかりやすく伝えるようにしている。 保護者からの相談についても機能を活用し出来るだけタイムリーに相談に乗れるよう心がけている。	ICTを上手く活用し、より保護者が安心して療育を利用できるような機能の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者の交流の場が少ない	コロナの影響もあり、保護者の交流する機会の確保や保護者の交流の場に参加したいという意識が少ないことが上げられる。	今年はルアナ祭りや親子遠足を企画し保護者の交流を図ったが、実際に交流している姿をみるとやはり交流の場があった方が良く感じたので、次年度はペアトレの開催なども視野に入れていきたい。
2	非常時等のマニュアルが策定されていることが保護者に周知されていると感じていない人が複数いる	契約時に、説明はしているが契約時は他にもたくさん説明を受けるので情報がしっかり入らない可能性もある。	HP等にマニュアルを載せていくことも検討していく。
3	保護者からの苦情対応の体制が保護者に十分周知されていないという意見が複数あった	契約時に、苦情対応窓口および担当者、苦情があった時の相談方法について口頭および書面にて説明を行い、また苦情受付箱を玄関に設置しているが、周知がまだ不十分であるのかもしれない。	苦情受付箱をもう少し目立つように工夫する、苦情担当者の掲示をもう少し見やすいものに作り直すなど取り組んでみることをとする。